

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	生徒一人一人の夢や希望の実現に向け、「自立する心」、「探究する心」、「調和する心」を育む教育を展開し、家庭や地域社会と連携・協働しながら、郷土に対する愛着と誇りを持ち、社会の一員としての自覚と「社会を生きぬく力・切り拓く力」を身に付けた人間の育成を図る。					
(2) 現状と課題	不登校や発達障がい、就労や育児など、様々な課題を抱えた生徒が、通信制なら通えるかもしれないという希望を胸に入学してくる。将来社会の一員として生き抜く力を身に付けるため、生徒たちが自己管理に努め、主体的に学習に取り組み、社会的自立を目指して進路に向かうことのできる環境を提供することが課題である。					
(3) 重点目標	1 確かな学力を持つ生徒の育成 2 自己管理に取り組む生徒の育成 3 進路志望達成に向けてチャレンジする生徒の育成					
(4) 結果の公表	1 「学校評価結果報告書」を学校ホームページにおいて公表する。 2 「学校評価のための保護者アンケート」の集計結果・対応を保護者・生徒に送付する。					
自 己 評 価						
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	学校関係者評価 (9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	確かな学力を持つ生徒の育成	①生徒の学習状況について確実に情報を共有し、実態に応じた学習支援を行う。 ②「わかる」授業の実践を通じて基礎学力を定着させる。	単位修得並びに卒業率の向上を目指して、情報共有の徹底、放送視聴の積極的活用、着実なレポート提出を促した。また、教員の学習指導力向上のため、公開研究授業や校内研修を実施した。 この結果、修得単位数15単位以下の割合が減少し、21単位以上の割合が増加した他、卒業率（3年以上在籍の生徒が卒業する割合）が68%から71%に増加した。	B	・全体的に高い評価となっており、達成状況は概ね良好である。 ・経年変化においても評価が高くなっている。 ・分かりやすい授業を行っている。	退学者数、除籍者数ともに昨年度より減少（17名→11名）したとはいえ、引き続き、生徒との丁寧な面談を実施することが必要である。 選択幅のある教育課程の運用のために、各教科最低1名の常勤教員の必要性を含めた定数変更について働きかけを行う。
2	自己管理に取り組む生徒の育成	①基本的な生活習慣を定着させ、規範意識を養う。 ②生徒会活動を活性化する。 ③行事への積極的参加を呼びかける。	学校生活の様々な場面での教職員の積極的な呼びかけにより、生徒の自発的な挨拶が増えている。 文化祭において、生徒会の企画を参加生徒全員で盛り上げる様子が見られた。 各行事において、生徒同士のコミュニケーションが深まる場面が多々あった。	B	・生徒が積極的に相談できる体制が整えられている。 ・生徒の問題行動には根深いものもあるが、一つ一つ丁寧に解決するとともに、早期発見、早期対応をしてほしい。	生徒指導上の課題（問題行動等）を抱えたまま転入、編入してくる生徒が増加している。学校生活における基本的なルールについて年度始めから徹底し、機会あるごとに指導する。 学校行事の参加者数は微増にとどまった。面談を通して学校行事への積極的参加を促すことに取り組む。
3	進路志望達成に向けてチャレンジする生徒の育成	①主体的な進路選択のための支援を行う。 ②保護者へ進路情報を積極的に提供する。 ③生徒の望ましい職業観・勤労観や人生観を育成する。	令和3～5年度は学校を介して就職する生徒はなかったが、昨年度から就職を希望する生徒が増え始めており、今年度も就職内定者は増加している。 面談、応募手続のサポート、模擬面接、筆記試験対策を行った他、ジョブカフェやサポートステーションと連携し、職業選択やライフプランを考えた成果が出ている。	B	・生徒の進路について多様な情報を提供している。 ・進路活動について、本人、保護者、学校間での対話的な対応が今後も必要である。	本人、保護者、学校の三者で進路についての合意を形成するため、より早い時期に三者面談を行う。 保護者会や進路講演会をとおして、保護者への情報提供を充実させ、家庭での対話を深めてもらう他、外部講師を活用し、進路未決定者への働きかけを行う。
(11) 総括	通信制で学ぶ生徒の増加（在籍数R4 112名→R7 154名）、多様化（不登校経験者、様々な課題を抱えた生徒、進路変更による他校からの転編入生等）により、生徒一人ひとりへのきめ細かい対応が引き続き求められている。これまでの取組の結果、卒業率（3年以上在籍の生徒が卒業する割合）、単位修得者数、進路決定者ともに改善傾向にあるため、引き続き丁寧な指導を積み重ねていく必要がある。今後も、生徒・保護者・地域の方々の意見を参考にして、関係機関・SSW・SL Sとの連携を深め、教育活動の改善に努めていきたい。					
学校整理番号		52				
学校名		青森県立尾上総合高等学校				
通信制の課程						
自己評価実施日		令和8年1月13日(火)				
学校関係者評価実施日		令和8年2月3日(火)				
(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成						
学校運営協議会委員		7名				
いじめ防止専門委員		1名				